



謬言呈愚書似不肖又不孝
 中之教年未解也之海濱之
 君位し寡々として日を送り似
 将去る春秋之時情も亦忘る事
 物更ら多郎位も至折るは園
 之菊死満年殊少退官
 後之は双方併て少事定廣
 至終皆道之少閑を海分不能
 空々ぬ歸來以砌は二三言の
 閑暇も古之げとて再ひ多上の
 然とて老命を辱しり付て冬
 迄の事郎の情も存意も少
 空の海も由るなや余富も亦不
 念は五伏もと似似也
 此より来不願也懼空印之少
 歎然中して多うの一夜終て
 其願事を申上似信も其子
 たる如當六日思子研る事

其願事を申上候傳も其子
たも當り日思子研考
志を以頻之申義に取らば
其の案しるや其意を不仕
ふは已し情より少賢息
正五位殿へ少進り少校字
傳り少使のふ少下旨少記中
右意存る也 山本太郎と
申す國新聞を閱し其年
と海會の事旅院男爵職負
り少加り少初選派多也之是
し少増加あり之より我其修補
者古多者有従事民間に於り功
勞ありし者其他之を記載有
之より他特許を吟吟に又果
して同様にあり之由も勃然
舊情を慕し我輩も
微功もあきりしころ我之
愚考仕下序 正五位殿へ
内傳を打明け申上
仰尊殿へ宣し申上其ふ
高祖歎服中より我之少少候
惟ふ少改命功勞あり其議
より候も果も閣下より申
情より出候事 其他大臣
提議に非ず婦女子之類も亦
獲言する事あり人角を以て

乍遺憾是也打推還々末不
圖前文々々情々々其
念九若しゆ由叙中して
中書て存子中退官存國
其文の不在時多と断念は
信は他少くゆら定なるも
筆々々々々之身上深く
少略多納少下是非共一
少略多々々々々々々々
少迷惑々々々々々々々々
頼々々々々々々々々々々
乞能々一在少聴取し程
再三謹然々々上々也
敬言日謹言

上
和田謙吉
再拜

上
大隈伯爵殿
閣下



東京牛込區早稲田
大隈伯爵殿

願
中
親
展

和田謙吉





子筆縣朝夷郡
 川口五石九十八畝地
 曝村

十二月廿五日

